



# 四季 ~四中の季節~

第9号(1月)

- 教育目標
- 自分で考え進んで実践する人間
  - 公共心に富み情操豊かな人間
  - 勤労を尊び責任を重んじる人間
  - 健康でたくましい人間

令和5年1月13日発行

校長 関 勝 志

〒187-0045

小平市学園西町1-3-1

☎ 042 (341) 4344

Mail [gakkou@34.kodaira.ed.jp](mailto:gakkou@34.kodaira.ed.jp)

## 『七転八起』

校長 関 勝 志

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いたします。  
令和5年がスタートしました。今年卯年(うさぎ年)です。飛躍の年と言われています。うさぎがピョンピョン跳ね回るように、心躍る楽しい一年になることを願っています。

「月にはうさぎがいる」という話を聞いたことがあります。月の模様の黒い部分が「餅をついているうさぎ」の姿に見えるというものです。しかし、模様をどう捉えるかは国によって様々です。「カニ」や「イヌ」「ウニ」「ロバ」「女性の横顔」「編物をしている女の人」「木の下で休む男の人」など様々です。



また、「月うさぎ伝説」というものもあります。

『昔、あるところにウサギとキツネとサルがいました。ある日、疲れ果てて食べ物を乞う老人に出会い、3匹は老人のために食べ物を集めました。サルは木の実を、キツネは魚をとってきましたが、ウサギは一生懸命頑張っても何も持ってくるできませんでした。そこで悩んだウサギは、「私を食べてください」といって火の中にとびこみ、自分の身を老人に捧げたのです。実は、その老人とは、3匹の行いを試そうとした帝釈天という神様でした。帝釈天は、そんなウサギを哀れみ、月の中に甦らせて、皆の手本にしました。』というお話です。

うさぎは、可愛らしいだけでなく、どこか献身的な生き物なのかもしれません。

このお正月に、私は3年ぶりに初詣に出かけました。自分や家族の幸せも祈願しましたが、小平四中の一年が安全で、生徒も先生たちも幸せになるよう、また、高校受験やスキー移動教室のことも祈願してきました。そしていつものように、お守りと破魔矢を授かり、だるまを買いました。

最近では、「だるまさんがころんだ」とか、「だるまさん、だるまさん、にらめっこしましょ、笑うと負けよ、あっぷっぷ」なんて遊びは、あまり見かけなくなりました。

「だるま」は達磨大師という人がモデルになっています。達磨大師が自身の精神を磨き、人格を高める行いをしていたのが広まり、江戸時代に縁起物として「だるま」ができたようです。魔除けや病気予防に効果があるとして使われていたのが徐々に変化し、現在では願い事を叶える助けをしてくれる置物としても飾られています。



この「だるま」から思い浮かぶのが、「七転八起(しちてんはっき)」または「七転び八起き(ななころびやおき)」という言葉です。七回転んだら起きるのは七回じゃないとおかしいのではと思う人もいるかもしれませんが、人が生まれた時は自分の力だけは歩けず、周りの人に支えてもらいながら一度立ち上がります。この一回分を含んで「八起き」となるそうです。

「七転八起」は、失敗しても挫けずに立ち上がることに、辛いことにも負けずにやり通すことを意味しますが、その由来は達磨大師の言葉にあります。

『人は、ころがっても、ころがっても、そこから、立ち上がる力が第一だ。それには、腹の下から、腰のまわりの、すわりに気をつけよ。』

「挫けずに立ち上がる」という言葉からは、何となく「ボクサーがダウンしても10カウントの前に必死に立ち上がる」ような苦しいイメージをもつかもかもしれませんが、そればかりではありません。芯(重心)がしっかりしていれば、心が揺れ動かなければ、人も「だるま」のように自然に起き上がるものです。

物事は初めや始まりが肝心です。年の初めに、しっかりと目標や決意をもって一年を過ごすことが大切です。きっと、よい年となるでしょう。

「一月は行く、二月は逃げる、三月は去る」というように、あっという間に過ぎていく3学期だと思いますが、4月からの新しい生活を充実させるためには、とても重要な時期です。1・2年生はスキー移動教室があります。今年こそ実施できると信じています。3年生は高校入試が始まります。「人事を尽くして天命を待つ」気持ちで、頑張ってください。

## 税の作文 東村山税務署長賞 「様々な制限から感じた税金」

3年C組 倉本 心美

2020年、私は新型コロナウイルスとともに中学校に入学した。本来であれば希望で胸がいっぱいなのかもしれないが、不安の気持ちが大きかった。現在3年生になっても様々な行事は縮小や中止されたりと、制約が多い3年間だ。そんな世界で大きな問題となっているコロナを通して、私は税金の大切さ、税金の身近さを感じることができた。

例えば学校の中にある机・椅子や教科書、これらは税金によって使用することができている。その他にもたくさんのものが税金によって設置されていて、私たちは税金から支えてもらって教育が受けていられる。このような思いをもったのもコロナが始まってから。臨時休校や学級閉鎖を通して、今までの「当たり前」が「当たり前ではない」ことに気づかされた。授業を受けられることが当たり前ではない、行事が行われるのも当たり前と思っただけではない。一つ一つのことに感謝をする3年間であった。そんな中、市から一人一台のタブレット端末が配布され、それを通して学習する機会も増えた。このように市や都の教育に関わる税金によって、コロナ禍でも工夫した授業を受けられている。

そして私は中学校三年間陸上競技部に所属している。三年間で思うように部活動ができたことは少ないし、制限も多かった。マスク着用徹底で走ることもままならない日々。誰も悪くないから仕方のないこと。全国の陸上部の中学生も同じ思いだ。大会も中止になって苦しかったが、久しぶりに行われた大会では関係者の方の感染症予防や、運営に関わる税金のおかげで安全に大会を終えることができた。そもそも陸上競技場も税金によって作られていて、税金による改修工事などで快適に過ごせる競技場ができている。コロナに右往左往された三年間だったとしても、中学生の夢の場所を維持してくれた関係者の方に、また税金によって安全に競技できたことに、感謝を忘れずにしていきたい。そして価値ある時間を過ごせた。

当たり前と思っていたことが一瞬で消えてしまったからこそ気が付いたこと。私たち生徒のために、コロナ禍でも学べる場所を作ってくださった方、それを支える税金。感謝を忘れてはいけない。税金の使われ方に賛否両論が続く世の中。自分には関係のない税金の使い方だと納得できないのは確かだ。しかし私のように税金によって、希望の道が開かれた人は多いだろう。私はこのような状況だからこそ、自分にある最大限の可能性で色々なことにチャレンジしていきたい。たった一人の中学生だが、自分にできること、将来社会に貢献できると信じて。制限が多い今こそ、明るい未来を信じて。



## 中学校生徒意見発表会

国語の授業の夏休みの課題として、2学年生徒全員で意見作文に取り組みました。9月上旬に授業の中で、班の中での発表を行って班代表を決定し、9月末にクラスでの発表会を行いました。クラス代表7名が選出され、学年発表会を行ったのが10月の終わりでした。最終的に選出された阿部夏子さん、1月10日の「小平市中学校生徒意見発表会」において発表を行いました。体験をともし感じた「対話」の大切さについて、大きな会場のたくさん聴衆の前で、しっかりと自分自身の言葉で意見を発表しました。

今回は四中が当番校ということで、1学期から発表会のサブタイトルを考えてくれた前期の生徒会役員の人たち、ポスターのイラストを担当してくれたイラスト部の喜佐美舞さん・佐々木愛美さん、当日の司会などを担当してくれた今期生徒会役員の人たち、本当にありがとうございました。



## ■生徒の活躍■

「税についての作文」と「税の標語」で4名が入選しました。

- 3C 倉本 心美 東村山税務署長賞
- 3E 春日 暁弥 多摩武蔵納税貯蓄組合連合会 優秀賞
- 3D 増田 陽音 多摩武蔵納税貯蓄組合連合会 優秀賞
- 2D 藤澤 珠紀 商工会会長賞



イラスト部 ミツバチの一枚画コンクール 感謝状

ソフトテニス部 10ブロック冬季研修大会 Bチーム準優勝 Aチーム3位

吹奏楽部 TAMA アンサンブルフェスタ 金賞

スキー 小熊 健祐 東京都中学校総合体育大会 男子回転の部 優勝 1分46秒12  
男子大回転の部 4位 1分57秒83

## ■2月の主な行事■

- |     |               |     |       |         |               |
|-----|---------------|-----|-------|---------|---------------|
| 1日  | 2年振り返休業日      | 13日 | 全校朝礼  | 20日     | 生徒会朝礼         |
| 3日  | 安全指導          | 14日 | 専門委員会 | 21日     | 都立高校一次・分割前期入試 |
| 8日  | 中学校体験入学(小6児童) | 16日 | 中央委員会 | 24日~28日 | 学年末考査         |
| 10日 | 新入生保護者説明会     | 17日 | 避難訓練  |         |               |